

コンデンサースピーカーは昔から研究されていたスピーカーで、最近にできたものではありません。ただし新しく生れたプラスチックの進歩と共に発展したものですから、大変新しいものであるともいえます。特にその構造を研究の結果大改良をし (Pat. P.) ますますコンデンサー型の良さを発揮する新方式が完成しましたのでここにStax ESS型として発売することにしました。

コンデンサースピーカーは今までのダイナミック型と異り、マグネットが全然ありません。そしてスピーカー全面が鳴るので、特別にバッフル板やキャビネットの類がないのです。そしてスピーカー自身は薄いもので、内部の振動部分は厚さがわずか数ミクロンのプラスチック膜で羽根のように軽いものでできております。これを電気力で直接駆動するので、クセのない音が出てくるのも不思議ではありません。

従来のスピーカーの振動部分である紙や金属は、指ではじいてみると、独得の固有の音が出てきます。ところが、コンデンサー型の振動膜からは、気になるような固有音はほとんど出てきません。この影響はスピーカーを演奏した時に、耳にはよく判ることなのです。例えば人の声を再生した場合、紙臭くなったり、機械的な金属音になってみたりして、めいりようでしかも温かみのある肉声は出にくいものです。

このような音質の差は一搬に行われている測定法ではハッキリした違いが出てきません。ですからとかく見逃しがちで、ただ何となく音がちがうということがわかるだけで、まだボンヤリした問題のようです。このような音質の問題に興味をおもちの方は、コンデンサー型スピーカーの研究をしてみるのもおもしろいでしょう。

Stax ESS-3A及びESS-6Aは市販のメインアンプのスピーカー出力端子に接続すれば、直ぐ動作するように、入力は8オーム端子が出ております。

この方式は他社(米、英国)でも採用していますが、我国のHi-Fiファンの「そんな簡便法ではなく専用アンプで駆動すれば、さらに良い音質になるはずだ」というご要望にこたえて、弊社が苦心した結果専用アンプにも切換えることができるように作られています。

色々なアンプの音質の差をためしてみることも面白いものです。

ESS-6A/3Aともに、全帯域にわたって指向特性がきわめて良好で、近くに寄っても遠く離れてきいても、音量感にあまり差が現れません。これは特にステレオの場合、他では得られない自然な音場一臨場感が得られるので正に理想的です。小さい部屋でも大きい部屋でも、繊細で迫りに富んだ音楽再生を実現できる、ほとんど唯一つのスピーカーです。

### ■ ESS-3A規格

型式：3ウェイ全音域コンデンサー型  
所要アンプ出力：約15W以上  
入力インピーダンス：約8Ω及び400Ω (OTL用端子)  
再生周波数：40~20,000%  
感度：84dB/m/w  
成極電源：AC. 100V 50, 60%  
寸法：114.5(高)×60(巾)×7[脚25](奥行)cm  
重量：20.5kg

### ■ ESS-6A規格

型式：3ウェイ全音域コンデンサー型  
所要アンプ出力：約30W以上  
入力インピーダンス：約8Ω及び250Ω (OTL用端子)  
再生周波数：25~20,000%  
感度：88dB/m/w  
成極電源：AC. 100V 50, 60%  
寸法：186.5(高)×76.5(巾)×7[脚25](奥行)cm  
重量：35.5kg